

平成27年6月1日

会員各位

協会だよりー270(6月号)

JCRA(Japan Catalyst Recovering Association)

触媒資源化協会

トピックス

● 第225回月例会(講演会・懇親会)

開催日：平成27年6月4日(木) 講演会 13時50分～16時20分
懇親会 16時30分～19時00分

場 所：エッサム神田ホール

講演①：「hydroprocessing 触媒と FCC 触媒の“昨日と今日”」

講 師：渕上 循氏(日揮触媒化成株)

講演②：「燃料電池用触媒の開発と回収・リサイクルの展望」

講 師：松谷耕一氏(田中貴金属工業株)



初夏の北の大地にて、クラーク博士像(北大構内)と札幌大通り

- 一. 協会よりのお知らせ
- 【実施済事項】
- 【予定事項】
- 二. 第四〇期定期総会を終えて
- 三. 事務局より(六年度の予定)
- 四. メキシコを訪ねて(鶴岡武さん)
- 五. 【雑学】歴史散歩・桜と古墳の街、粕江を歩く

1. 協会よりのお知らせ

【実施済事項】

① 協会だよりー269(5月号)をメール&郵便で送信(5/1)

② 第40期(平成27年度)定期総会

日時：平成27年5月12日(火) 15時45分～17時15分

場所：JXグループ六本木クラブ

③ 第一回運営委員会

日時：平成27年5月21日(木) 16:00～17:00

場所：堺化学工業㈱東京支店会議室

出席：運営委員、専務理事、第225回幹事会社(相田化学工業㈱、エヌ・イーケムキヤット㈱、川研ファインケミカル㈱)

議題：225回月例会の準備、創立40周年祝賀会準備委員会の発足。

[予定事項]

① 第225回月例会(講演会・懇親会)

開催日：平成27年6月4日(木) 13時50分～19時00分

場所：エッサム神田ホール

講演①：「hydroprocessing 触媒と FCC 触媒の“昨日と今日”」

講師：瀧上 循氏(日揮触媒化成㈱)

講演②：「燃料電池用触媒の開発と回収・リサイクルの展望」

講師：松谷耕一氏(田中貴金属工業㈱)

2. 第40期定期総会を終えて

平成27年5月12日(火)、15時45分より JX 六本木クラブ(港区六本木 3-16-7) 会議室にて第40期(平成27年度)定期総会が開催された。正会員37社中、出席会員30社、賛助会員4社中出席会社2社の32社の出席となり、委任状提出会員5社を加えて総会は成立した。

平成27年度は当協会が設立されて40年の節目を迎える。現在、正会員37社、賛助会員4社の計41社が加盟している。役員の任期は2年間のため、今年度は役員全社の留任となる。今年度の月例会は3回を予定している。直近の第225回月例会(講演会・懇親会)は6月4日(木)エッサム神田ホールにて2件の講演を行う。また第226回月例会(一泊研修会)は田中貴金属工業様に10月2日(金)～3日(土)群馬県富岡市の田中貴金属工業㈱富岡工場見学を許可いただいた。宿泊先及び翌日の懇親ゴルフは交渉中である(後日、宿泊は妙義グリーンホテル max 50名、ゴルフ場は妙義 CC6組予約完了となった。)第227回月例会(講演会、新年会)については詳細がまだ決まっていないが平成28年2月上旬を予定している。創立40周年記念祝賀会は平成27年11月16日(月)18時より一ツ橋の如水会館松風(3F)にて開催する予定である。翌日の17日(火)に創立記念コンペを相模原 GC(神奈川県相模原市)で開催する予定である(5組予定済み)。第一回運営委員会で祝賀会準備委員会を発足する予定である。平成26年度事業報告及び決算報告、平成27年度事業計画及び予算案が拍手をもって承認された。総会終了後17時30分より同クラブ和室にて52名の出席で懇親晚餐会が催された。





懇親晚餐会に出席の皆様

JX 六本木クラブ和室 (B1) にて (H27. 5. 12)

3. 事務局より (6月度の予定)

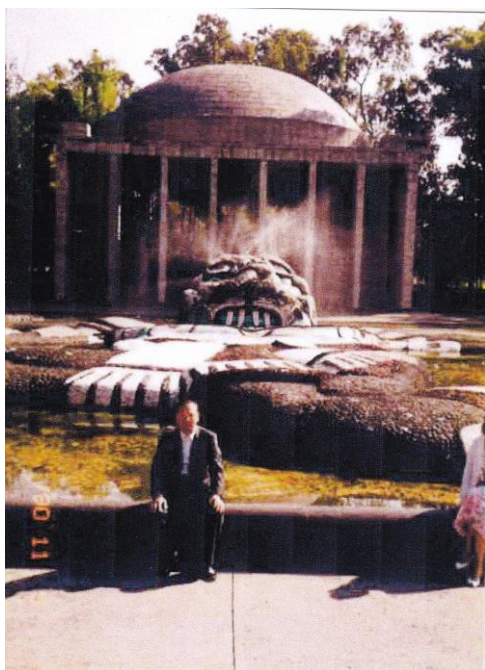
月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6
○	○	○	225 月例会	○	×
8	9	10	11	12	13
× (G)	○	× (C)	× (古)	○	×
15	16	17	18	19	20
×	○	×	×	○	×
22	23	24	25	26	27
× (G)	○	×	× (古)	○	×
28	30	7/1	7/2	7/3	7/4
×	○	×	×	○	×

6 月度の出勤予定：12 日間、×赤字は個人予定有。

4. メキシコを訪ねて

北アメリカ南部で、米国と国境を接し西は太平洋、東はメキシコ湾とカリブ海に面するスペイン語圏のメキシコに新たな顧客ができ10年間ほど営業と打ち合わせを兼ねて訪問している。本社はメキシコシティーで工場は高速道路を四十分程走った工業地帯にあり、近所に日産自動車、シチズン、三豊等の日系企業があった。顧客オーナーはユダヤ人、ハーバード大学の子息を常に自慢する金持ち、借金皆無で倒産の多い現地銀行は信用せず且利用をせず、全て現金商売で毎日五百万円ほどある売上金は米国銀行へ送金していた。この国は南米の先進国を自称するも、メキシコオリンピック時がピークで栄えたが今は経済が

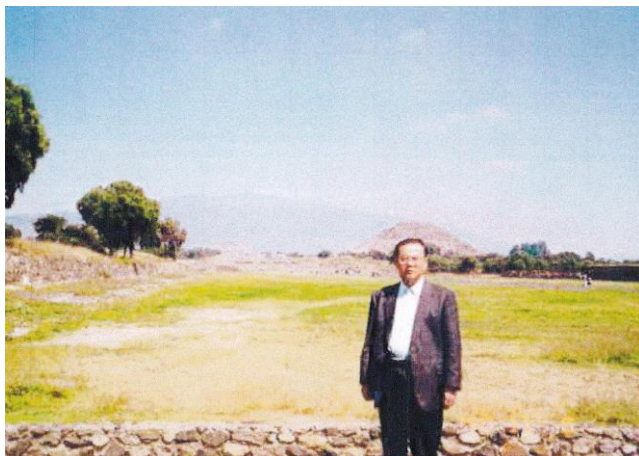
悪化し市内の自然環境も極めて悪い。メキシコシティは盆地であり、風が少なく気温が高い、また海拔2千米以上の高地故酸素が希薄の為、エンジンは不完全燃焼を来し、光化学スモッグが多発する。飛行機から見ると市は黒いカバーに覆われており、如何にひどいか分かる。首都の当市には全国民の二十五%が生活しており、空気は薄いが急激な運動をしない限り苦痛は感じない。唯突然の来訪者は就寝時胸苦しさが有り、熟睡できない。市内の清掃は良くされており、シンガポールの如く罰則はないが自由意思で各戸の前は清められ裏通りもゴミの無いのは気持ちが良い。国土の下を火山帯が走っている関係で二千米以上でも、温泉があり、日本のアルプス頂上に湧くに等しく沸点が低いので湯煙に覆われ仙人の住まいだ。



南米の中でも先進工業国で生活もブラジルよりは良く高速道路は整備されており、乞食も見かけずイメージと異なり戸惑った。車洪水はメキシコシティにもあり、山に囲まれスモッグが著しく晴天でも青空が見えないのは前記通りだ。全て

の車に五種のレッテルが張られ、色ごとに走行禁止の曜日が決まっているも、休日はフリーで効果半減だ。生活必需品は安価で生活に支障はないが、高級品は別、例えば味なしパンは安くデコレートパンは五倍もする。学校は不足し、三部制が実施され且先生の給与も安いのは南米と同じだ。金持ちは郊外のきれいな空気の地に別荘を持ち土、日を過ごすし、ゴルフ場が隣で我々と一緒にプレイしたが庭伝いに来た奥さんは数ホールで家事の為帰り、子供の小学生も半分プレイして帰宅し、まるで自分の庭だ。一方田舎から上京の貧乏人は市内に住み、政府の土地を無断借用し、山の上にバラックを建て、電気は盗用、大雨の時など汚物がふもとへ流出し不衛生極まりない。この地域は無法地帯で警察も危険で立ち入れない。市の中心街に沢山の露天商が並び、皆無届なるも生活に追われ仕方がないと地元民の声。

メキシコ湾で二十年前に海底油田が発見され、産油国の仲間入りだ。精製技術が弱く原油を米国へ輸出し、高価なガソリンを輸入、アメリカに儲けられている。石油担当大臣は油の輸入で莫大な賄賂を取るのが常となり、末路は皆刑務所へ入っている。ひどい例だと、米国からの輸入タンカーを故意に沈没させ、ガソリン市況を吊り上げ賄賂の額を増やそうとした大臣もいたらしい。



市内から五十キロの地にピラミッド遺跡があり、広大な神殿跡が発見されたが九百年頃消滅し、その理由が皆目分からず、一説には疫病万延説もあるが文字の無かった国の為、全てが謎に包まれている。1500年頃スペインに占領されるまでアステカ王朝が栄えたが、全て破壊後、跡に立派な教会が建設され、現存する豪華さは見事だ。メキシコシティーは湖水の中の島で、埋め立てで

現在の市街地を作った故、地盤が弱く地震の影響で立ち入り禁止教会もある。

メキシコ料理はトウモロコシをふんだんに使用、野菜や肉に数種のチリソースをつけて食べるも辛さは上中下と選べ便利だ。又、高地の為気温差が激しく朝晩は5～6度と冷えるが、日中は20度以上に昇温し、直射日光下では半袖で、夕方はセーターと不便であり、メキシコ人は年中クシャミをし風邪気味の者が多い。対日感情は良く、幕末最も早く平等条約を取り



り交わした友好国だが、米国には良い感情を持っていない。カルホルニアを含む南部四州は「アラモの砦」らで知られるよう、米国に強制的に取られた歴史がある。親日の理由の一つにメキシコ市民は大の空手ファンで日本人を見れば空手教授をせがまれ邦人は困るらしい。

又、観光用の驢馬がおり、人前でビールを飲み酔ってしまうと別の驢馬に入れ替わり、アル中になってしまうと心配である。サボテンの皮から紙や、繊維を取り、ロープやテーブルクロスとし、汁から酒や石鹸を作り捨てるどころがない。テキーラもつくられるのか？親日と申したが、彼らの先祖はモンゴリアンでアラスカから南下し、赤ちゃんは東洋人独特の尻斑がある。

スペイン人管理の高級農園があり、金持家族が週末に隣接レストランでデナーを楽しみ、我々も参加したが何と美人の多いのには驚愕した。娘たちは皆美しいが、混血のせいなのか？何度もトイレ往復し鑑賞したが母親は殆ど豚みたいに太り、変化が信じ難し。この時初めてメキシカンキャビア（蟻の卵）を試食したが、変な味。

現地に住み着いている日本人曰く、気候も良く真面目に一生懸命働けば金に困る事は無く居心地は抜群との事、因みに、彼は世界中旅をし結果として、ここに落ち着いたらしい。

以上

執筆：鶴岡 武(アジア物性材料(株)取締役会長)

五.【雑学】歴史散歩・桜と古墳の街、狛江を歩く

歴史を楽しみ歩く会が企画した、狛江を歩くに参加した。狛江市は人口8万人ほど、小田急電鉄が多摩川を越える手前に位置し、新宿より20分ほどの便利な街である。東は世田谷区、北・西は調布市、南・東は神奈川県川崎市に接している。市の面積は6.39k㎡(639ha)と埼玉県蕨市5.11k㎡(511ha)に次いで全国で二番目に小さい市として有名。

4月4日(土)狛江駅10:00までに集合のこと、私も町田に住んで45年、その間、小田急線で新宿に向うけれど、狛江駅に下車したのは今回初めてであった。

さて今日のハイキングコースは次のルートである。

狛江駅発…弁財天池…泉龍寺…経塚古墳…兜塚古墳…伊豆美神社…万葉歌碑…五本松…多摩川桜並木(昼食)…むいから民家園…旧田中橋石柱…亀塚古墳…玉泉寺…和泉多摩川駅解散。



雨模様の中、上下雨具を着用して、いざ狛江駅を出発する。歩き始めて1～2分、あっという間に森に囲まれた泉龍寺弁財天池に到着。弁財天池は市民に「しみず」という名で親しまれ「和泉」という地名もこの池からうまれたものと推察されている。1200年前ほど、奈良時代に全国的な大旱魃があり、東大寺開山として有名な良弁僧正がこの地において雨乞いを行ったところ、龍神が現れて雨を降らし、このときに水が噴き出したとのこと。以後水が枯れる事は無かった(狛江市史跡 説明板より)。次いで本体の泉龍寺へ向う。



泉龍寺の山門と鐘楼門



泉龍寺は良弁僧正を開闢初祖、鉄曳瑞牛和尚を中興開山、石谷清定を中興開基としている。江戸時代には徳川將軍家から朱印地20石を拝領し、境内は約1万6,900坪に及んだ。

境内の本堂、鐘樓門、山門、開山堂は江戸時代後期の建築で市指定文化財に指定されている。今の小田急線狛江駅の敷地も泉龍寺の境内であったといわれている。泉龍寺に別れを告げ、マンション境内にある経塚古墳をフェンス越しに拝見し兜塚古墳へと向う。

《兜塚古墳》 狛江市中和泉 3-23



都指定史跡、直径36m、高さ5mほどの円墳と確認されている。周溝内から、円筒埴輪の破片が出土し、6世紀前半に築造された古墳と推定されている（兜塚古墳の説明版より要約）。名前の由来は兜の形によるものか？

《伊豆美神社》 狛江市中和泉 3-21-8



もとは六所大明神と称し、明治元年（1868）に伊豆美神社と改称された。主祭神は大国主尊、【一の宮】小野大神【二の宮】小河大神【三の宮】氷川大神【四の宮】秩父大神【伍の宮】金鑽大神【六の宮】杉山大神の関東一円の主要神社をまとめて祭る。字大塚山（現在の水神社のあたりと想定される）に鎮座していたが、天文19年（1550）の多摩川の大洪水で流失し、現在地に鎮座した。参道にある石鳥居は、慶安4年（1651）に、この地を治めた旗本・石谷貞清によって建てられたもので市文化財に指定されている。花崗岩で作られた小ぶりの鳥居で、身長170cm以上の方は頭をぶつける高さしか無い様だ。鳥居の高さから、江戸時代の日本人は背が低かったことが偲ばれる。

《万葉歌碑》 狛江市中和泉 4-14



多摩川に さらす手作り さらさらに
 なにぞこの子の ここだ愛しき
 「万葉集」巻14 (3373 東歌)



(意) 多摩川にさらさらさらす手織りの布ではないが、今さらながらに、どうしてこの娘は可愛いのだろう。

※武蔵の国の歌。「手作り」は手織りの麻布。多摩川(=今の東京都と神奈川県川崎市)河畔では、手織りの麻布を朝廷に調(=税)として献上した。現在も調布の地名が残る。布は水に晒し、日に晒して漂白する。(坂口由美子『ビギナーズ・クラシックス・日本の古典 万葉集』p200~201 角川ソフィア文庫(2012)より)

文化2年(1805)松平定信の揮毫により、緒方村半縄(現在の緒方四丁目辺り)に建てられたが、洪水により流失した。現在の歌碑は、大正11年(1922)旧碑の拓本を模刻して、松平定信を敬愛する渋沢栄一らと狛江村の有志らが協力して新碑が建てられた(歌碑説明板参照)。何故、揮毫を松平定信がしたのだろうか?松平定信は田安家 初代宗武の三男に生まれたが、久松松平家(桑名藩)の養子となった。しかし幕府直轄領から田安家の御料として10万石が分与されている。武蔵の国からも1万7000石が与えられて、その領地に現在の狛江の一部があった縁ではなかろうか?

万葉通りと名付けられた道を戻ると、すぐ多摩川の堤防である。江戸時代、多摩川のこの場所より用水を引き込んだ、六郷用水の水門がある。現在では逆に市街地の排水のための水門として活用されているようだ。六郷用水とは多摩郡和泉村(現・狛江市元和泉)の多摩川を水源とし、世田谷領と六郷領つまり現在の狛江市から世田谷区、大田区に至る用水路であった。

堤防に登ると、広々とした多摩川の河原が広がっている。数百メートルさきには五本松



が見える。多摩川50景、新東京100景の一つに選ばれている名所で、時代劇等の映画やテレビの撮影に利用されている場所とも言われている。



多摩川と堤防



沿いの満開の桜

2015 04 04



多くのグループが花見の会を開催中

04 04



2015 04 04

曇天ながら雨も上り、堤防脇の公園で昼食となる。午後の見学のためエネルギーを補給する。花びら散る公園内では多くのグループが宴会中である。

多少肌寒いので隣の宴会がうらやましいが、ハイキングのため終了するまでアルコールは残念ながら自粛（我慢）である。参加者点呼の上、午後の見学に進む。

《むいから民家園》 狛江市元和泉 2-15-5



2015 04 04

旧荒井家主屋は18世紀末頃和泉村（現在の元和泉一丁目あたり）に建てられたもので、昭和2年の小田急線開通時に敷地内を線路が通るため曳き家で移転し、さらに平成4年の小田急線連続立体交差事業および複々線事業のために解体保存され、平成14年に狛江市立古民家園に移築復元された。「むいから」とは屋根に使う麦わらのことで、古民家園の愛称となっている。

《亀塚古墳》 狛江市元和泉一丁目

なんと、宅地開発が進んだためか、この古墳は四方民家に囲まれ小さな中庭の模様を呈している場所にある。入り口ですら民家の敷地内を通るような狭さである。

昭和26年、28年の発掘調査で5世紀末から6世紀初頭の全長40m、高さ6.9mの帆立貝形古墳であることが判明した。出土した副葬品から、亀塚古墳の被葬者を渡来人と考える学説が提示された。



この学説については亀塚古墳の築造時期が、『日本書記』の記述等から一般に渡来人が東国に移住したといわれる666年より150年も前であること、副葬品が近年の調査成果から見て畿内有力古墳に近いことから、その可能性は低くなった。しかし狛江古墳群中屈指の墳丘規模を誇り、唯一の帆立貝形古墳の被葬者は、多摩川中流域に君臨した首長クラスの人物であったものと考えられる。

(狛江市ホームページ <http://www.city.komae.tokyo.jp/> 参照)

住宅街の中を通り、和泉玉川駅方面と進む。小田急線の高架下を抜け、和泉多摩川駅のほぼ近くに玉泉寺がある。

《玉泉寺の菩提樹》 狛江市東和泉 3-10-23



狛江市指定天然記念物

玉泉寺のボダイジュ

このボダイジュは、高さ約12メートル、地上から50センチの高さから二岐し、北枝は目通り幹囲1.33メートル、南枝は1.08メートルの枝が伸びる大樹です。樹勢は良好で、樹齢は約300年と推定されています。

ボダイジュはシナノキ科に属する落葉高木で寺院などによく植えられています。

昭和53年3月

狛江市教育委員会



出だしは、雨具や傘の重装備で有ったが、すぐに雨はやみ、快適なハイキングとなった。40名も参加する大部隊で有るが、心がけが良い人が多いのでしょう。参加者全員怪我も無く、今回は和泉多摩川駅（小田急線）で無事解散となった。

【文責：専務理事】